

お知らせ

信州大学人文学部
委託調査研究報告会
 開催日時 7月9日(木)
 午後7時～9時
 場所 穂高総合支所大会議室
 内容 「景観問題と安曇野景観研究」 信州大学人文学部 村山研一教授

市では、信州大学人文学部と地域文化の振興・生涯学習・学術研究などの分野で連携協定を結んでいます。昨年度、同学部へ委託した調査研究の報告会を次のとおり開催します。皆さんお出掛けください。

●日時 7月9日(木)
 午後7時～9時
 ●場所 穂高総合支所大会議室
 ●内容 「景観問題と安曇野景観研究」 信州大学人文学部 村山研一教授

住宅用火災警報器の設置はお済みですか？

今お住まいの住宅に、この6月1日から住宅用火災警報器の設置が義務づけられているのをご存じですか。火災で亡くなる人の多くは逃げ遅れによるものです。火災は皆さんの尊い命や財産を奪います。まだ設置されていないお宅には住宅用火災警報器の1日も早い設置をお願いします。詳しくは最寄りの消防署へお尋ねください。

●日時 7月9日(木)
 午後7時～9時
 ●場所 穂高総合支所大会議室
 ●内容 「景観問題と安曇野景観研究」 信州大学人文学部 村山研一教授

「電子防鳥機」購入費の助成

市では、農作物の鳥類被害対策および騒音対策として、「電子防鳥機」を購入した人に対し、購入費の一部を助成します。

●対象機器 電子防鳥機（電子音声で鳥の鳴き声《警戒音》を出して鳥からの被害を防ぐ機能）

●対象者 市内在住の農家
 ※補助申請は1世帯1回限り
 ●補助率 購入価格の3分の1以内（1万円を上限として予算の範囲内で交付）
 ●申請期限 9月30日（水）
 （郵送の場合は当日消印まで有効）
 ●申し込み 各総合支所内産業建設課に備え付けの申請用紙に、必要事項を記載のうえ直接申請するか、郵送の場合は左記へ送付してください。審査後、申請数に応じ、予算の範囲で補助金額を決定します。実績報告に、電子防鳥機の購入が確認できる領収書または購入明細書を添付してください。

※なお、電子防鳥機の購入期限は10月30日（金）までです。
 ●申請先 三郷総合支所内農政課 〒399-8101 安曇野市三郷明盛4810-1

市税等の口座振替

口座振替を利用して市税などの支払いをしている人で、次のような変更があった時は、口座振替依頼書により変更・解約の届け出が必要となります。詳しくは収納課までお問い合わせください。

- ▽納税・納入義務者が死亡した時
- ▽相続などで名義変更があった時
- ▽婚姻などで姓が変わった時
- ▽国民健康保険加入世帯で世帯主が変わった時
- ▽預金口座、預金名義、口座番号などの変更や、通帳を解約した場合

シソジュース作り講習会

豊科女性研修センター利用運営委員会では、「シソジュース作り講習会」を開催します。暑い夏を元気に過ごすために、赤シソを使って、のどごしさわやかなシソジュースを作ります。

●日時 7月18日(土)
 午前9時～午後9時
 午後1時30分～午後3時
 ●場所 豊科女性研修センター（成相高架橋下JR大糸線の東）
 ●定員 各10人（先着順）
 ●講師 豊科女性研修センター利用運営委員

三郷新規就農者住宅入居者募集

市では、新規就農者住宅の入居者を募集します。

●募集内容
 ▼住所 三郷小倉1330番地3
 ▼種別 1階建て B棟

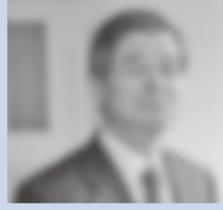
●参加費 1本（1LDK）300円（材料費・ビン代）
 ●持ち物 エプロン・三角きん
 ●申し込み 6月26日（金）から豊科総合支所内産業建設課で受け付けます。電話または直接お申し込みください。定員になり次第締め切ります。

▼間取り
 2LDK（バス・トイレ付）
 ●家賃 月額1万5,000円
 ●入居期間 9月1日～原則5年間
 ●入居資格 市内に新規就農された人のうち、現在住居にこまっっている人
 ●申し込み 7月17日（金）までに、三郷総合支所内産業建設課 備え付けの入居申込書・営農計画書に記載し、添付書類と合わせて提出してください。
 ●選定方法 専門委員会による書類審査により選定します。

寄附・寄贈のお礼【敬称略】

- (5月25日～29日)
- ◇穂高人形保存顕彰一眞会 穂高人形お船祭り保存会 小平教室 9,712円 福祉のため
 - ◇特選呉服 夢がみ安曇野店 小関大輔 21,400円 福祉のため
 - ◇宮本昭司 200,000円 新古今和歌集他7冊 三郷中学校図書館の充実のため

人権コラム



生き方自問
 人権教育指導員
 中田 育成

「子ども叱るな、来た道じゃ、年寄り責めるな、往く道じゃ」こんな言葉で諭してくれた父が、晩年、多発性脳梗塞を患い、数年間認知症を患った後、83歳で世界から消えてからはや15年になる。

奇妙な言動を見せ始めた当時は、有吉佐和子の「恍惚の人」が大きな反響を呼び、高齢者介護についてスポットが当てられ始めていたころで、後刻、専門医の診断で、初めて病名を知った訳である。やがて、各地にデイサービスが生まれ、お世話になった施設の方々やご近所の方々から温かく支えていただき、家族一同有り難い思いであった。

最近、「八重子のハミング」という文庫本に出会った。筆者ご自身が2年間に3回ものガン手術に遭遇する中、奥さんが若年性アルツハイマーと診断され、日々限りなく0歳に戻っていく。リハビリが逆効果というこの病気に対して、職を辞して2人旅をする11年間の記録である。

おじいさんの後姿から「やさしさ」が一番の薬と、すべてを受け入れて世話をする、小学生の3人のお孫さん。講演等でどこへ出向くにも同道され、「こうした病気を正しく理解してほしい」、「地域社会が何の偏見も無く受け入れてほしい」と、奥さんの姿を隠さずに語られる筆者。講演中、突然歌いだした奥さんの「里の秋」を、涙ながらの大合唱にした聴衆の方々。東京の満員電車で「春の小川」を一緒に歌ってくれた男性。大浴場に「清掃中」を掲げ、夫婦だけの至極の時を用意してくれた女将さんの「おもてなしの心」など、ハッとさせられる場面の連続である。

人権尊重の礎は、今まみえる相手のすべてを受け入れるという、己の優しさであることを教えられた一冊である。